

# 環境基本計画と各個別計画の比較及び新計画への改善点

資料3

## 環境基本計画 基本目標1

### 【基本目標】

自然と共生しオオタカがすむ、緑と水に育まれるまち

### 【方針】

生態系に係る重要な場所・環境を保全・再生するとともに、まちなかの水辺や緑を豊かにして、生物多様性の確保、自然との共生を目指します

### 【施策の方向】

①「生物多様性ながれやま戦略」の推進②市街地の緑の保全・創造③農地や斜面林の保全・活用、農地生態系保全④水辺の保全・活用、水辺生態系保全

## 生物多様性ながれやま戦略

現在改訂中

改訂内容が固まり次第検討するが、人口増によりまちの姿が変わりつつあるため、どこまで自然を保全すべきか又は保全の方法について再検討して提案したい。

## 環境基本計画 基本目標2

### 【基本目標】

エネルギー効率が高く、太陽の力を活用する低炭素なまち

### 【方針】

様々な場面での省エネルギー対策によりエネルギー効率を高めるとともに、太陽光発電を軸とした再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の少ない低炭素型の都市の形成を目指します。

### 【施策の方向】

- ①「流山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」の推進
- ②都市と交通の低炭素化
- ③市役所の環境マネジメントシステムの運用、改善

- ・市民や事業者を巻き込み脱炭素社会を目指す
- ・公共施設において再エネ導入及びその活用の促進を目指す

## 流山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

### 【長期目標】

2050年度の二酸化炭素排出量 実質ゼロ

### 【基本方針】

市民や事業者の意識・行動改革による実践行動「ソフトパワー」を最大限に活かし、「脱炭素都市ながれやま」の実現を目指します。

### 【重点施策】

- ① 市民・事業者との協働による省エネルギー生活への転換の推進
- ② 再生可能エネルギーの活用
- ③ 環境負荷の大きい自動車からの転換
- ④ 廃棄物の発生抑制と資源循環
- ⑤ 緑地保全と都市緑化による二酸化炭素吸収源対策

## 流山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

【目標】2025年度において、2019年度比で14.7%削減します。

### 【重点プロジェクト】

- ①再生可能エネルギーの導入推進
- ②公用車EVと再エネ充電設備の普及促進
- ③廃棄物処理施設の省エネ化とごみの焼却量削減
- ④緑化の推進
- ⑤情報化の推進
- ⑥省エネルギー対策
- ⑦職員が取り組む対策

環境基本計画  
基本目標3

【基本目標】

ごみを少なく、資源を有効に利用する循環型のまち

【方針】

「3R」を推進し循環型社会を目指します。また、発生抑制の推進、資源化の促進と併せて、安全で、環境負荷の少ないごみ処理を目指します。

【施策の方向】

- ① 「流山市一般廃棄物処理基本計画」の推進
- ② 国・県の廃棄物行政や関連自治体との連携
- ③ 廃棄物不法投棄、ごみのポイ捨て等への対策

計画同士の大きな内容の違いは無く、さらなるごみ発生量の減少及び資源化率の向上を目指す。

流山市一般廃棄物処理基本計画

表1 数値目標

項目	単位	現状	中間目標	計画目標
		2017年度 (平成29年度)	2023年度 (平成35年度)	2028年度 (平成40年度)
ア 1人1日当たりのごみ発生量	g/人・日	853	789以下	768以下
イ 1人1日当たりの家庭系ごみ発生量 (容器包装プラスチック類、ペットボトルを除く)	g/人・日	438	402以下	372以下
ウ 資源化率(資源化量÷ごみ発生量)	%	22	22以上	22以上
エ 最終処分量	t/年	8,275	4,061以下	3,974以下

基本方針

- 1 大量廃棄からの脱却とさらなる資源化
- 2 環境負荷の少ないごみ処理システムの構築

個別施策(抜粋)

- ・ごみ減量・資源化の啓発
- ・公平な費用負担
- ・食品ロスの削減
- ・プラスチックごみの分別徹底と再資源化

生活排水処理基本計画編

基本方針

- 1 公共下水道を中心とした生活排水処理の促進
- 2 循環型社会形成に資するし尿・浄化槽汚泥処理システムの構築